

## 7回 環境問題を生み出す社会構造について／環境と経済の密接な関係を学ぶ。

森岡 昭雄

当講義が、他の環境関連講義と異なるのは、「環境問題」と「経済」を関連づけて考えていること、そして、環境問題の解決のためには「経済活動の考え方」と「その実践」が必須なことを十分に意識していることから始まる。

具体的には環境問題の解決は、従来の公害とは違って技術的な対応だけでは不十分であり、経済社会の制度の変革・改革をとまなわなければ効果がないと考える。そして、「環境破壊をしない持続可能な社会」の創造のために、世界レベルでのさまざまな「政策」とそれらの政策を実現するための「予算措置」が必要なこと、つまり、環境問題の解決に当たって、「技術の発展」と「政治と行政」のかかわりを強く意識していなければならない理論だといえる。

### 環境と経済の密接なカンケイ

阪南大学 千葉知世 準教授

皆さまは「環境問題」と聞くとどのようなものを思い浮かべられるでしょうか。本学の学生に尋ねてみると、「地球温暖化」「PM2.5」「ごみのポイ捨て」といった答えがよく返ってきます。

これらは確かにいずれも環境問題です。地球温暖化（気候変動）問題は、人類の直面する最も解決困難な課題の一つですし、PM2.5は越境大気汚染の問題です。ごみの不法投棄も深刻な自然環境汚染の原因となっています。その他にも、例えば生物多様性の損失の問題、エネルギー供給の問題、資源枯渇の問題など、様々な問題があります。

こうした環境問題に共通しているのは、第一に、人間の何らかの社会経済活動が原因で起こっているということです。第二に、あらゆる国において重大な問題となっているということです。その国が資本主義国であっても社会主義国であっても、先進国であっても発展途上国であっても、北半球の国であっても南半球の国であっても、いまの社会が普遍的に直面している問題と言ってよいでしょう。

人間の何らかの社会経済活動が原因で起こっているにも関わらず、従来の経済学では、環境問題は主な関心の対象とされてきませんでした。しかし、特に産業革命以降、先進国の各地で公害問題が噴出するようになると、経済学は環境問題をいよいよ無視できなくなりました。さらに1980年代頃から、経済のグローバル化が進行し、国際的な経済の相互依存関係が深くなるにつれ、人間の活動は地球規模の環境悪化を引き起こすということが認識されるようになりました。いわゆる地球環境問題の顕在化です。

こうした中で、「環境と経済の関係」を理解しようとする動きが大きくなります。つまり、環境問題を引き起こす経済の仕組みは一体どういうものなのか、環境破壊によってどれほどの経済的損失が生じるのか、環境破壊を防ぐためにはどのような措置をとるべきなのか、といったことが盛んに論じられるようになったのです。こうした問題が「環境経済学」の主要な課題と言えます。そして「環境政策論」は、環境経済学をはじめとする様々な学問分野の知見を借用しながら、環境問題を生じさせる社会構造を分析し、現実の環境問題に応用できる具体的な政策を考え出すことを目指しています。

さて、このような分野を扱っていると、たまにこのようなことをおっしゃる方に出会います。

「環境も大事かもしれないが、人間にとっては、経済発展の方が大事ではないか。環境を守るために、経済発展が妨げられるのには同意できない」。もしかしたらここを読んでくださっている方々の中にも、こうしたご意見をお持ちの方もおられるかもしれません。

しかし、考えてみて頂きたい。環境が深刻に悪化した状況で、持続的な経済発展は可能でしょうか。人間が自然環境から享受している財やサービス（自然の恵み）のことを、環境経済学の用語で「生態系サービス」や「環境サービス」と呼びます。この生態系サービスの多くは、金銭的な価値をもたない（価格がついていない）ため、「タダ」だと思われてきました。しかし、これに莫大な経済的価値があると考える経済学者たちもいます。中には、地球生物圏の生態系全体のサービスの金銭的価値を評価し、その価値を当時で年間 16 兆～54 兆 US ドルとした研究例もあります。

つまり、環境破壊は経済的損失を生み出します。また、経済が資源の状況に依存している以上、長期的に環境破壊は経済活動それ自体を制約する要因となるのです。さらに、高い経済成長を達成していながら、汚染された環境の中で暮らさねばならない状態を、人々は「幸福だ」と思えるのでしょうか。

「経済か環境か」ではなく、「経済も環境も」高めていく必要があります、そのために環境経済学や環境政策論は不可欠な学問です。経済学に興味を持たれた皆さま、環境破壊を最小限に抑えて豊かに暮らす道を、そのための社会・経済のつくりかたを、一緒に模索してみませんか。

今回は初めての投稿でしたので、「環境経済論」で扱っている内容のおおまかな紹介をさせていただきました。次の機会には、私の具体的な研究内容の紹介をできればと思います。またお目にかかるのを楽しみにしております。

社会環境学部 オリジナルサイト

福岡工業大学 HP 抜粋

企業や行政、NPO などで環境問題の解決策を企画・立案し、行動できる人材を育成するため、「経済・経営」、「法・政策」、「人間生活」という 3 つの文系的視点から環境問題を考えるとともに、少人数のゼミやフィールドワークを通してさまざまな体験を行い、専門的な知識を学修します。

少人数の教育で社会環境学と大学生活のトビラをひらく。

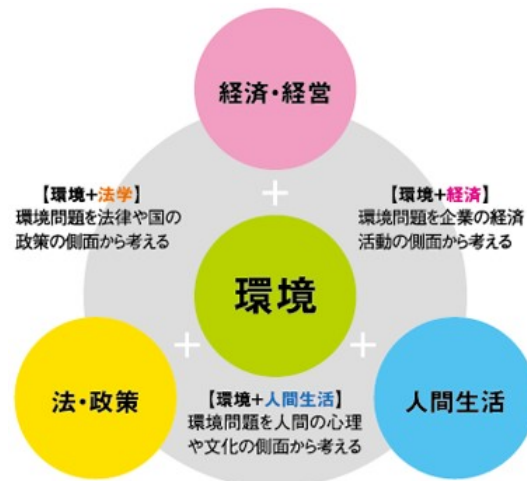
環境問題に対して地球的な観点から多面的に物事を考え、環境調和型社会の実現に向けた理解を促します。また、人文社会科学の基礎である国語や数学の基礎学力の確立を目指します。

社会環境学科では 1 年次から 4 年次まで少人数のゼミ形式の授業を取り入れ、大学生活のスタートを担当教員が細やかにサポートします。

経済・社会活動に不可欠な“環境目線”を育み、新たな価値を創造する力を身につける。

社会環境学科 学科長 中川 智治 教授

現代の企業活動や消費行動は、環境への視点抜きには語れません。環境と経営・経済・法律・人間心理・地域社会などとの関連性を、学外活動もまじえながら学び、環境目線でこれらをとらえる思考力と実践力を身につけます。こうした学びを通して、今の時代に求められる新たな価値を創造し、広く社会に必要とされる人材育成を目指しています。



### 生物多様性の重要性

WWF ジャパンHP 抜粋

生物の多様性が一人ひとりの生活にどのようにかかわっているのかを実感するのは難しいかもしれませんが、それでも、生物多様性が私たち人類の生存に大きくかかわっていることはまぎれもない事実です。

### 生態系サービス

そもそも、この地球上のあらゆる環境はあらゆる自然によって形作られたもの。その中には、動物、植物、土、といった多くの要素が含まれており、普段食べている魚や貝、紙や建材などになる木材、生きるために欠かせない水や大気など、さまざまな資源がここから生み出されています。

森や海の環境は、地球の気温や気候を安定させる大きな役割も果たしており、時には災害の被害を小さくする防波堤の役割も果たしてくれます。

2004年に起きたスマトラ島沖地震の際には、マングローブの林や健全なサンゴ礁のある地域では、津波のエネルギーを吸収してくれて被害が少なく済みました。

IUCN（国際自然保護連合）の試算によれば、生態系がもたらしているこれらのサービスを、経済的価値に換算してみると、1年あたりの価格は33兆ドル

（約3,040兆円）。

アメリカのGDP（国内総生産）が14兆ドル、世界全体のGDPが約60兆ドルであることを考えると、私たちがどれほど大きな恩恵を受けているかが分かります。



## 健康と医療への恩恵

保健や医療に関しても、生物多様性が果たしている役割があります。人類の医療を支える医薬品の成分には、5万種～7万種もの植物からの成分が貢献しています。また、世界規模地球環境概況第4版によれば、海の生物から抽出される成分で作られた抗がん剤は、年間最大10億ドルの利益を生み出すほどに利用されているほか、世界の薬草の取引も2001年の1年で430億ドルに達したされています。

そして、多様な自然環境の中には未発見の物質も数多く存在していると考えられています。

これらが発見されれば、現代の医療が解決できていないさまざまな難病が、いずれ治療できるようになるでしょう。しかし今、このさまざまな恵みが失われようとしています。近年の人類による環境の搾取は、生物多様性が持っている自然の回復力、生産力を、25%も上回る規模で資源を消費させ、一気に枯渇させようとしています。それは人類が生物多様性から受けている恩恵を、自ら失うことであり、未来の可能性を閉ざしてしまうことでもあります。

## 生物多様性の価値

これらのように、生物の多様性が、私たちにもたらしてくれている恩恵は、実にさまざまです。

しかし、生物多様性の重要性を考える時に、忘れてはいけないことがあります。それは、生物多様性というものが、地球上のあらゆる生命が、「人間のためだけに存在しているわけではない」ということです。

私たちはとかく、何が、いくら分の経済的価値があるのか、といった「ヒトの視点」で、物事の意味を語りがちです。しかし、生物多様性という一つの大きな世界を考えると、その視点だけで意味の軽重を問うべきではありません。

## 生物多様性条約の原案

生物多様性条約が作られた時、その前文の原案には、次のような文章がありました。

「人類が他の生物と共に地球を分かち合っていることを認め、それらの生物が人類に対する利益とは関係なく存在していることを受け入れる」

この文章は、最終的に削除されてしまいましたが、これは私たち人類が、地球上の生命の一員として、決して忘れてはいけない一条であるといえます。

